

# A 病院の児童虐待予防に関する地域連携の実態調査

三 宅 壽 美

## Survey of Community Collaboration for Prevention of Child Abuse in A Hospital

Sumi Miyake

### 抄録：

児童虐待を妊娠期から予防するための示唆を得ることを目的として、社会的ハイリスク妊婦に対する地域連携の実態調査を行った。研究1の対象は、A病院で2018年度～2020年度までに分娩した妊婦1,702人である。先行研究に示された「大阪府のアセスメントシート」を参考にし、社会的ハイリスク妊婦を93人抽出した。社会的ハイリスク妊婦を要支援群、それ以外の妊婦を対照群として、アセスメントシートの39項目について比較した。該当者が少なかった2項目を除く37項目のうち32項目に有意差があった。地域連携は全妊婦の約10%に行われており、A病院の特定妊婦は全妊婦のうち4%であった。連携を開始した時期では、2020年に産後1か月以降の連携が増加していた。研究2では社会的ハイリスク妊婦に関わる支援者への半構造化面接を行った。対象者はA病院の虐待対応委員会などの職員3人である。結果はコアカテゴリーとして【周産期連携病院としての社会的ハイリスク妊婦支援】【市町村との連携の課題】【制度の課題】【診療費まで含めた支援体制の構築の必要性】が抽出された。

妊婦のリスク要因について検討を行ったが、スクリーニングから漏れないようにするには、妊娠中や産後の母児の変化を総合的にみて再度アセスメントし、支援を開始することが必要である。また、A病院とA市以外との連携が不十分であり、支援に切れ目が生じることのないよう情報共有が必要である。さらに、退院後1か月までの母児の育児支援や、妊産婦のメンタルヘルス支援のための地域連携が必要である。

キーワード：妊娠期からの児童虐待予防，地域連携，社会的ハイリスク

**Key Words:** Prevention of child abuse from pregnancy, Regional Collaboration, Social high risk